

ワークショップ 「肝切除における無作為化試験」

司会：海堀 昌樹 先生（関西医科大学外科学講座）

落合登志哉 先生（京都府立医科大学附属北部医療センター外科）

【司会の言葉】

肝切除術は肝臓に対して最も根治的な治療であり、近年、その安全性は飛躍的に向上している。しかし、National Clinical Database (NCD)の解析によると、肝切除全体の手術関連死亡は2.4%と報告されており、さらに安全性を向上させる必要がある。また肝臓術後再発率の抑止および生存期間の延長も肝臓治療において十分に克服されていない長年の課題である。今回、当ワークショップでは肝臓やその他の腫瘍に対する肝切除術での無作為化比較対照試験（randomized controlled trial: RCT）において、手術時出血量や術後合併症発生率などをエンドポイントとした短期成績の比較、肝臓術後再発や累積生存をエンドポイントとした長期成績の比較、また周術期管理における検討などを広く募集したい。各施設からの多数のRCT結果を根拠に、今後の肝切除の役割について広くディスカッションしたい。